

平成 25 年度総合研究大学院大学海外学生派遣事業 実績報告書

氏名：中田梓音

海外派遣先国名：オランダ

海外派遣先大学名：ライデン大学

海外派遣先大学所属：ライデン大学 L I A S (Leiden University Institute for Area Studies) Visiting Scholar

海外派遣期間：2013 年 9 月 1 日～2013 年 10 月 4 日

① 海外派遣先大学について

ライデン大学（オランダ語：Universiteit Leiden）はオランダのライデンに所在する公立大学である。現在のオランダ国内にある大学としては最も古い。6 学部・50 を越える学科・150 以上のコースを有する同学は国際的にも高く評価されており、ヨーロッパで最初に日本学科が設置されたのはライデン大学である。各地にキャンパスがあり、日本語学科はライデン駅から徒歩で通える距離であった。

② 海外派遣前の準備

博士論文執筆と後期からの論文ゼミの参加のため、10 月までにはだいたいのデータ収集を終わらせるように計画を立てた。派遣先の大学の教授とはメールで連絡を取り、オランダやライデンに関する情報や宿泊先の紹介などもしてもらった。ちょうど観光シーズンのため宿泊場所の確保には直前まで手間取った。アパートの大家さんと直接連絡と交渉をして、ぎりぎりまで手配した。すぐに連絡が返ってくる所ばかりではないので、早すぎるくらいの準備が必要だった。ビザなどは大使館に問い合わせをしたところ、有効期限が充分であれば、ビザは不要であったため今回は申請していない。

③ 海外派遣中の勉学・研究

主に日本語学科の大学生、およびBA（バachelor課程）の日本語授業の見学を行った。授業後には、学生に対してのインタビュー・データ収集を行った。また、日本を愛好する学生団体：「嵐電」とともにイベントの参加、ライデン市内での酒場に関する情報収集とデータ収集を行った。日本語学科で日本語を教える教授の紹介により、ブリュッセル（ベルギー）とケルン（ドイツ）の日本語教育センターなどを訪問し、見学とデータ収集を行った。期間中に日本フェスティバルを開催する博物館があったので、訪問・インタビューを行った。

④ 海外派遣先での語学状況

初級の授業では主に英語、上級の授業では日本語を使用。生活にはオランダ語を使用した。ほとんど英語が通じるので特に語学の問題はなかった。

⑤ 海外派遣先で困ったこと

- ・オランダ人の身長が日本人と比較して非常に高いため、家具・自転車などすべてが大きく、手足が届かない場合が多かった。
- ・外食費用がかなり高く、ファーストフードでもセット 1000～2000 円かかる。
- ・時差が大きく、オランダー日本の緊急の連絡の取り方の時間帯に困った。

⑥ 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

現地でしか得られないものがある、と改めて感じた。語学の不安は多少あったが、今までと

違う環境の中で自分の研究と向き合い、いろいろな視点から考えることができた充実した1カ月だった。ぜひ、この制度を利用して研究に役立てて欲しい。



ライデン市内



ライデン大学



オランダ名物クロケット